

ハブハブハー

ハブハブハー

3年 C・Hさん

この本の主人公は、ハブというドクヘビの子供、プハーです。私はヘビが大好きです。それは、私がまだ幼稚園に通っていた頃、家の近くの空き地でアオダイショウが現れて、私はこわくてギャーと悲鳴をあげながら走ってにげたという苦しい思い出があるからです。あの時私がやっていた事は、本の中で最初にルリカケスたちがやっていた事と同じ事でした。プハーやアオダイショウは、害をなそうとはしていなかったので、にげられてショックだったと思います。

また、田植えのイベントの時、ヘビが現れたら、スタッフさんが太めな木のぼうをさがし、そのぼうで、思いっきりたたいてくじよしたり、追い払ってくれます。これは、私にとっては良い事だけど、ヘビからしたら仲間や自分の人生をうばわれたり、怪我を負うヘビもいるので辛い事だと思います。ヘビは、私たち人間以外の生き物にもこわがられる、とてもかわいそうな生き物です。そんなかわいそうな生き物なのに、なぜくじよするの？

この本を読んだ直後、田植えのイベントの事を思い出していた私は、そう思いました。しかし、よく考えてみると、くじよをしなければならぬ事もあるという事に気がつきました。ヘビにとってはとても辛い事だとわかっているのに、私たちが生活するためにはくじよしなければならぬものもある。

生き物のかんけいは、すごくむずかしい事です。

でも、私は、この地球上にすむたくさんの生き物たちが、みんな仲良くできる日がきつくとくると、信じています。地球にすむたくさんの生き物たちと仲良くなれるよう、日々、どりよくをかさねようと思います。